

令和6年度 和泉市医療と介護の連携フォーラム企画書（案）

テーマ：

「わたしらしく迎えたい 人生の最終ステージにおける最後“もしものとき”」
～人生会議と、緊急入院時に知っておきたいこと～

1. 背景・目的：

- 2025年に65歳以上の高齢者人口は、総人口の約30%に達する。高齢者人口が増えると、特に医療と介護の連携の場面で問題になるのが、命に関わるような緊急入院時・緊急搬送時に、ご本人が意思表示できなくなり、望む医療を決められない事態に陥ることである。
- その場合の多くは、病院側が家族に治療方針を相談することになるが、家族も突然のことで混乱し、「ご本人にとっての最善」が何なのかを悩んでしまうという問題がある。また、ひとり暮らしの高齢者や頼れる家族・知人がいない等複合的な課題を抱える高齢者も増加しており、問題は深刻化している。
- 「もしものとき」に、どういう治療をしてほしいか・どういう最期を迎えたいかを日頃から考えておくことは、自分らしい高齢期を過ごすことに繋がる。その方法の一つに「人生会議」があり、令和5年度のフォーラムでも取り上げた。今年度のフォーラムは、引き続き「人生会議」についての周知啓発を目的とした内容とするが、専門職によるパネルディスカッションの時間を十分に確保し、また令和5年度作成した『フォーラム版 人生会議メモ』をブラッシュアップしたものを使用するなど、参加者が自分事として考え実践につながるような内容を目指す。

2. 日時 : 令和7年2月22日(土)
13:30～15:30(開場 13:00)

3. 場所 : シティプラザ レセプションホール

4. 対象 : 和泉市在住・在勤・在学の人(先着順 定員100名予定)
※部屋の定員は200名だが、GW予定のため定員少なめ

5. 内容と方法 :

メインテーマ:「わたしらしく迎えたい 人生の最終ステージにおける最後“もしものとき”」
サブテーマ: 人生会議と、緊急入院時に知っておきたいこと

時間: 120分

【第1部】専門職が直面する課題とは（合計：60分）

パネリストに緊急入院時の現場で直面する課題・日常で備えておくこと等について話しあって頂く。なぜ人生会議が必要なのか、につながるように。

座長：東條 周子医師

- ①当事者家族（市長又は副市長又は専門職）

- ②各専門職から現状・課題について

- *医療専門職（医師）：

- *介護専門職（ケアマネ協会）

- *訪問看護（看護師）

- パネルディスカッション（25分）

⇒人生会議メモにつなげ、〇〇から紹介する（5分）

休憩（5分）

【第2部】専門職と市民の座談会（40～50分）

専門職と市民が交流しながら、人生会議メモを実際に書いてみる。（40分）

総括（10分）

- その他連絡事項等（5分）

アンケート記入